

(様式 2)

女性の就農環境改善計画

実施主体名	Enjoy Farming Party
取組	(2) 地域の女性農業者グループの活動支援
構成員数	5人

1 事業実施方針

【背景、課題】

富良野地域は全国でも有数の畑作、野菜産地であるが、日本全体における少子高齢化・核家族化や、農村部における人口流出、農家数の減少などの社会変化や、男性優位な農業界の構造は、当地域においても例外ではない。これらに対し、当地域の農業も大規模化や機械化、ICTの活用、またJA等での女性理事の数名程度の登用などにより一部対応を図ってきているが、依然として人力での対応が必要な作業も多く、女性農業者が軽んじられてきているのが現状である。

これらの人力を必要とする作業については、当団体のメンバーにおいても、これまで農作業経験者や離農者の個別日雇い契約や、JAを中心に全国から働き手を募集する農作業ヘルパー制度の活用などにより、人材の確保を行ってきた。しかしながら、昨今の農作業経験者や離農者の日雇いも高齢化が著しく、農作業ヘルパーも全国的な人手不足から確保の厳しい状況が続いており、『持続的な一定の人材』の確保が農業経営における喫緊の課題となっている。

また、2021年のふらの未来農業 EXPO2021において、株式会社マイナビによる「農業界の雇用と女性」についての講演があり、非常に有益な内容だった。全国的にも農業界は「セクハラ、パワハラ、モラハラ」についての理解が他業界に比べ非常に遅れており、女性農業者はもとより農業労働未経験の女性たちにとっても働きにくい環境であることを改めて感じている。昨今女性の農業経営参画と業績の相関関係も指摘されてきているが、実際に農業にかかわる女性が仕事場や関係機関・関連業者などの一部から受けているセクハラ・パワハラ、モラハラなどについては話がなくなることはなく、意欲や自信、尊厳の喪失などにより本来発揮できたであろう仕事能率の低下が引き起こす損失も十分に経営上の課題である。

一方、全国同様に少子高齢化は進んでいるが、地域内には自衛隊上富良野駐屯地が立地されており、転勤により一定期間で更新されながらも、自衛隊官舎や周辺の賃貸住宅には20代から40代を中心とした当該地域出身者以外（主に都市出身者）の生産年齢人口の世帯が常に一定の割合存在している。この一定数の自衛官の配偶者（主に女性）を中心に、他事業の同世代の世帯配偶者（地元出身者や移住者など）も含めて、地域内の潜在的な『持続的な一定の人材』として期待できるのではないかと仮定し、令和3年度には個別の聞き取りや、関係機関を経由した聞き取り調査、独自のアンケート集計(別添)などを行ったところである。

その結果、この女性たちは子育てや転勤等による時間的・期間的制約や社会的孤立、農業の経験不足や知識不足、時代に適合しない男性優位な農業に対する各種ハラスメントのイメージなど不安から、農作業に対し二の足を踏んでいる状況にある一方、農業自体には興味があり、労働に対する意識も高いことから、特定の課題を解決していくことで『持続的な一定の人材』への期待は十分感じられる内容であった。

【目的】

本事業では、一事業主としての点ではなく、複数の経営参画する女性のいる事業体からなる協議会として面を取り組むことで、雇用・被雇用問わず、女性が心理的身体的に『安心して働ける環境を整備する』こと、産地として潜在的な女性の働き手を発掘し、継続的に『農業界で働き輝く女性を輩出し続けていく』（結果、関係人口も増えていく）ことを目的とする。

【方針】

『安心して働ける環境を整備する』

農業と人材雇用に精通する企業と連携し、農業と女性と雇用について専門的に、より具体的に深く勉強する。必要に応じ、上富良野町と中富良野町にて子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）を展開している「NPO 法人こどもサポートふらの」とも連携し、地域の女性たちの農業に対する不安を解消し、また子育て中でも働きやすい環境作りを考え、整備することで、地域女性の農業での雇用につなげる。

『農業界で働き輝く女性を輩出し続けていく』

令和3年度に個別の聞き取りや、関係機関を経由した聞き取り調査、独自のアンケート集計(別添)などで浮かび上がった、20代から40代の自衛官の配偶者(主に女性)を中心に、他事業の同世代の世帯配偶者(地元出身者や移住者など)も含めた方々をメインターゲットとして掘り起こし、人材確保につなげる。また、自衛官などの転勤による人材の入れ替えを通じ、転入者は新たな農業界で働き輝く女性として迎え入れ、転出する人材は新たな赴任先でもまた当協議会での経験を活かし農業界で働き輝く女性として、また、富良野という産地のファン(関係人口)として継続的に輩出し続けていく好循環な仕組みを作る。

【実施】

農業と女性、雇用について深く勉強をするために、農業サービス「マイナビ農業」を手掛けるなど農業と人材雇用に精通し、各方面で講演会など活躍する株式会社マイナビとの連携で進めていく。必要に応じて「NPO 法人こどもサポートふらの」と共に、雇用・被雇用問わず、子育て中も含めた地域の様々な女性たちが働きやすい農業の環境づくりを考え整備する。

またこれと並行して、「NPO 法人こどもサポートふらの」や近隣自治体の農業関係部署や子育てサークルなどを通じて協議会の雇用の周知を図り、実際の雇用を交えながら制度の最適化を進めて、雇

用・被雇用共に農業界で働き輝く女性として輩出し続けていく。

(具体的な方法)

自分たち雇用側も含め、この先多くの女性たちに安心して働いてもらうためにはアンケートなどから見えた課題などの改善が不可欠である。雇用についての基本的な勉強のほか、専門的な知識を自分たちで網羅することは非常に困難なことから、女性活躍を応援し、たくさんの情報を持つ株式会社マイナビと連携して、専門家を派遣なども考慮に入れた4回程度の連続した勉強会を開催する。必要に応じて「NPO 法人こどもサポートふらの」とも連携し、農業にかかわる女性の働きやすい環境を考え、整備する。2022年度に大きく地域として前進出来るように進めていく。

また、並行して本協議会のHPを作成し、「NPO 法人こどもサポートふらの」や近隣自治体の農業関係部署や転入転出業務を扱う部署、各種子育てサークルなどを通じたチラシ配布、SNSなどにより女性ならではの安心感を全面に、協議会の面としての取り組みや雇用の周知。Web上にわかりやすい農作業動画等の投稿のほか、子育てにやさしい農園のPRや時短勤務、急な休みへの対応などに対する対策等を事前に周知しておき、実際の雇用を交えながらPDCAサイクルを回して、雇用・被雇用共に農業界で働き輝く女性として輩出し続けていく制度の最適化を図る。

【補足】

<「NPO 法人こどもサポートふらの」と、アンケートから見える地域のニーズについて>

「NPO 法人こどもサポートふらの」は、主に子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業、通称：ファミサポ）という、子どもの預かり、送迎、緊急時サポートをするNPO法人であり、中富良野町と上富良野町からの委託を受けて運営している。現在300人以上の会員がおり、女性町議を中心とした女性たちからなる事務局のサポートの元、会員同士で子どもを預かり合ったり、勉強会やイベントを通して母親同士が繋がったり、子育て中に孤独に陥らないように活動している。（私たちメンバーも5人中3人がサポーターとして登録されており、今現在、メンバーの夫2名がファミリーサポート講習を受けている最中で、サポーターの認定を受ける予定だ。）実家から遠く離れて暮らす自衛官の家族の多い町では、この「ファミサポ」は子育て女性たちの大きな助け、居場所になっている。

そこで、「NPO 法人こどもサポートふらの」に登録している子育て中の女性に、農業に対する意識アンケートや聞き取りを行ったところ、8割の女性が農業で働くことに興味を持つことが分かった。また、「子育て中でも仕事をして社会と繋がりたいが、自信がない」「農業に興味はあるが、上手くやっっていけるか心配」「子育て中で、急な休みがあったりして大丈夫か、また短時間で働けるか心配」「自衛隊で転勤してきたばかりの時は情報が無く、どこで働けるのかわからずに、次の転勤の時期がきてしまう」など多くの課題が見つかった。

私たち農業者だけではなく、子育てのサービスを展開している「NPO 法人こどもサポートふらの」と連携することにより、「子育て中でも安心して働ける」「いざというときには子どもを預かってもらったり送迎を頼める」「農業者が女性で、子育てに理解がある」という環境を作っていく。

専業で子育て中の人、育児休業などで子育て中の人にとって、農業で働くことは「社会に出ているという実感を持つ」「家で子供と向き合っているだけではない時間を作り、心の余裕を得る」「子ども

以外の大人と話すことによって、孤独な状況に陥らないようにする」「外で作物と向き合っただけでストレス解消になる」など、たくさんの有益な効果があることは聞き取りやアンケート等でも確認している。

また、働き先の農家が「NPO 法人子どもサポートふらの」のサポーター会員、またその関係者であるという安心感もある。これはファミリーサポート事業を行っている地域特有のものである。

種々の理由で子供を設けていない女性との連携はもとより、地域の農業と子育ての事業が連携することにより、産地の人手不足を解消し、働く女性を増やし、女性の孤立を防ぎ、ひいては農業界全体のより良い環境を作っていくことにつながると考える。

【事業活動の普及の可能性（地域外への、女性活躍に関する貢献について）】

子育て中の女性たちが農業において働くために必要な情報は、集約して全て公開していく。女性の目線での「働きやすい農業」についても発信していく。また、農村ならではの各種ハラスメントについても、全国的な問題であるとの認識から、業者と連携してデータを集め、その解決策についても発信していく。

また、本事業では自衛官などの転勤による人材の入れ替えを通じ、転出する人材は新たな赴任先でもまた当協議会での経験を活かし農業界で働き輝く女性として十分に活躍することが期待できる。

なお、本事業の制度設計は、全国同様に地域として全体的に少子高齢化は進んでいるが、自衛隊駐屯地という立地により起こりえる、「転勤により一定期間で更新されながらも、自衛隊官舎や周辺の賃貸住宅には20代から40代を中心とした当該地域出身者以外（主に都市出身者）の生産年齢人口の世帯が常に一定の割合存在している」という特殊性の上になりたっている。これはどこの地域でも当てはまるものではないが、全国の自衛隊駐屯地の立地地域のほか、「自衛隊駐屯地」を例えば「地方合同庁舎」または「一定規模以上の工場等の企業立地」、「自衛隊官舎」を「公務員官舎」または「企業社宅」と変換すると、当該地域と似た条件の立地地域がいくつも確認することができる。

これらのことから、当地域での事業制度を基にした取り組みは、他の地域に波及することは十分に期待できるものと考えられる。

（注）具体的に記載してください。

2 女性就農環境改善に向けた実施体制

Enjoy Farming Party メンバー5名で発足。

メンバーは全員、富良野緑峰高校農業特別専攻科の修了生、または現学生。

また、全道の女性農業者ネットワークの「きたひとネット」「LINKS」のメンバーであり、事務局のメンバーもいる。

【連携】

「NPO 法人 こどもサポートふらの」
→会員の農業への参入のサポート、子育て中女性の雇用のサポート、勉強会の連携
「株式会社マイナビ 農業活性事業部農業領域中央部 北海道企画営業課」
→勉強会の実施、専門家の派遣、アドバイザー
「上富良野町役場 農業振興課、企画商工観光課、保健福祉課」
→研修場所の提供、事業の町民への周知、勉強会への参加
「中富良野町役場 企画課」
→勉強会への参加、場所の提供、町民への周知

(注) 応募団体での受入体制や関係機関との連携状況等を具体的に記載してください。

第4の(1)の事業の応募者については、協議会等に属する構成員について5名以上の農業者(女性1名以上を含む)の氏名を記載してください。

3 女性就農環境改善のため実施している取組及び今後の取組

(1) 女性の就農希望者、新規就農者の呼び込みに向けた取組

内容	成果/目標	備考
(過去の取り組み)		
① 2021年度の農林水産省補助事業の「女性が変える未来の農業推進事業」の支援を受け研修を実施。NPO 法人マザーズライフサポーター)伊藤氏から当該 NPO 法人の事業内容についての研修を受ける。地域の子育て中の女性たちが農業で働くようになるまでの道筋、子育てをしながら働く仕組み作り、農業で働いてもらうことでのメリットについて、ヒアリング。(2022/2)	農業に子育て女性が入ってくれるメリットが良くわかった。 仕組みも非常にユニークで、取り入れられることも多かった。	
② NPO 法人こどもサポートふらのの会員の子育て中の女性に向けて、農業で働くことに関するアンケートと聞き取り調査を実施。(2021/12)	子育てしながら農業で働きたい人はたくさんいることがわかった。また、なかなかきっかけがないことや、どこで募集しているのかわからないなど、情報	

	<p>不足なこともわかる。HPには顔写真付きで農園紹介してほしい、細かな作業内容が事前にわかると安心、など、具体的な要望も聞いた。</p>	
<p>③ ふらの未来農業 EXPO2021「ふらの未来農業ゼミナール～雇用環境改善ゼミ～」にて株式会社マイナビより農業界の雇用と女性にかかる問題などについて講演を受ける (2021/11)</p>	<p>全国的にも農業界は「セクハラ、パワハラ、モラハラ」についての理解が他業界に比べ非常に遅れており、女性農業者はもとより農業労働未経験の女性たちにとっても働きにくい環境であることを改めて感じられた。</p>	
<p>(今後の取り組み)</p>		
<p>① 地域の女性たちに向けて、農園で働いてもらうように雇用の情報をHPやSNS、チラシを作成し、周知していく。HPでは写真や動画で作業の内容をわかりやすく配信、農業への不安を解消。また、子育てに優しい農園であること、短時間勤務や急な休みへの対応などについても詳しく記載。グループメンバーの顔写真などで女性をアピールし、安心感と親しみを持ってもらおう。</p>	<p>① HPの立上げ (6月) SNS (Instagram、Facebook) の発信 (週に1~2回程度) パンフレットの配布 (600枚程度) ・「NPO法人こどもサポートふらの」会員 300枚程度 ・自衛隊の家族サポートの部署に配布 (100枚×2回) ・中富良野町及び上富良野町役場 (保健福祉課、農業振興課、企画商工観光課、企画課) 計 100枚程度</p>	
<p>② 同じように労働力を求めている女性農業者</p>	<p>② 新規メンバー3名 (目</p>	

<p>で、同じような困りごとを持つ人たちに「Enjoy Farming Party」に入ってもらい、一緒に勉強し、活動していく。具体的には、同じ地域のフレッシュミズ（農協女性部）のメンバーや若妻会のメンバー、その他の繋がりで募る。</p> <p>③ 農作業体験会、農業説明会を開催。農業に携わったことのない人への理解を深めたり、農家との関わりを増やし、農業の楽しさを知ってもらう。</p>	<p>標)</p> <p>③ 年度内に2回ほど実施(目標)</p>	
--	-----------------------------------	--

(注)「内容」欄には具体的な取組内容等を記載し、必要に応じ、計画の詳細等を記載した資料を添付してください。

(2) 女性の新規就農者の農業や地域への定着に向けた取組

内容	成果/目標	備考
<p>(過去の取り組み)</p> <p>① 北海道富良野緑峰高等学校農業特別専攻科に入学する女性農業者を増やすために、メンバーが記事で書いたり、インタビューを受けている(ニューカントリー、農家の友、ふらの大地)。</p> <p>② 2021年度農水省補助事業でグループ研修をするにあたって、町役場の農業振興課に協力を要望し、活動をアピールしている。</p>	<p>① 毎年、紹介により女性農業者の入学は増えている。また、女性農業者の勉強に理解を示す家族が増えている。</p> <p>② 農業振興課が気にかけてくれるようになり、研修の場所の提供や、情報の提供をしている。</p>	
<p>(今後の取り組み)</p> <p>① グループの定期ミーティング</p>	<p>① 毎月(目標)</p>	

<p>② HP を見て、私たちのグループの農園で働くことになった人に対して、Instagram や Facebook などの SNS やメルマガ、公式 LINE からの発信で、地域の農業について知ってもらったり、色々な農家の紹介をしたり、農作業の豆知識を教えたり、緊急の雇用の募集などの発信を行う。また、秋から冬にかけて勉強会&交流会を行い、自分の働いていた農家以外の農家と交流したり、他の農園で働いていた人と知り合ったりする機会を設ける。</p> <p>(フォローをしっかりと行うことで、働く人の不安を無くし、意見を言いやすい雰囲気を作る。また、一緒に勉強することによって意識を高める。他の農家を知ることによって、シーズン中にヘルプで入ることも出来るように、農閑期に準備しておく。定期的に配信することによって地域に愛着を持ってもらい、継続的に働いてもらえる環境を作る)</p> <p>③ 専業の農業者ではなくとも、地域の大切な働く仲間として「Enjoy Farming Party」のメンバーとなってもらおう。</p> <p>④ 就業中に子どものサポートが必要になった場合、「NPO 法人こどもサポートふらの」にサポートを依頼して、安心して働ける環境を実現する。</p> <p>「NPO 法人こどもサポートふらの」と定期的にミーティングを設けることによって、運営のアドバイスをもらう。</p>	<p>② SNS は週 1~2 回の更新 (目標) 公式 LINE は週 1 回発信 (目標)</p> <p>③ 年間 10 人 (目標)</p> <p>④ 農業期のサポート依頼 (目標) ※ 実質利用が年間で 0 回であっても安心して働けるためにサポートは依頼する</p> <p>1 回/2 ヶ月 (目標) 常に外部からアドバイスをもらい、改善を重ねる。</p>	
---	--	--

--	--	--

(注)「内容」欄には具体的な取組内容等を記載し、必要に応じ、計画の詳細等を記載した資料を添付してください。

(3) 女性就農環境改善に向けた取組

内容	成果/目標	備考
<p>(今までの取り組み)</p> <p>メンバーそれぞれが、</p> <ul style="list-style-type: none"> ● J A ぶらの女性部 フレッシュミズ企画運営委員 ● 北海道女性農業者ネットワーク きたひとネット 役員 <p>等で活動する他、ニューカントリー、ぶらのの大地、農家の友などの記事執筆、インタビューなどを受けている。</p> <p>また、北海道富良野緑峰高校農業特別専攻科の周知と、女性農業者の入学促進に向けて情報発信をしている。</p> <p>(今後の取り組み)</p> <p>① 女性農業者が活躍しやすくなるためには、地域の農業者同士のセクハラ、モラハラ、パワハラが根絶されることが必須である。そのために、外部から講師を呼び（株式会社マイナビ等）、場合によっては社労士なども派遣してもらい、勉強会を開催し、具体的な解決に向けて動いていく。地域の連携も重要で、勉強会には上富良野町と中富良野町の役場職員、地域の農協役員や農業委員会、連携する NPO 法人こどもサポートぶらの事務局にも参加してもらい、地域全体として解決出来るように動いていく。</p> <p>② 本事業を通して集めた各種知見、</p>	<p>① 勉強会の開催 (2023 年 2 月に開催予定)</p> <p>②年一回 (目標)</p>	

<p>例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子育て中の女性たちが農業において働くために必要な情報 ● 女性の目線での「働きやすい農業」についての情報。 ● 農村ならではの各種ハラスメント、またその解決策についての情報 ● 本事業の制度設計 <p>などを HP や SNS 等各種メディアで発信していく</p> <p>(同様条件の他地域のにおいても参考とされ、波及していくような形)</p>	
---	--

(注) 農業委員等に選出された等、地域での活躍状況等を「内容」欄に具体的に、取組内容等を含め記載し、必要に応じ、計画の詳細等を記載した資料を添付してください。

4 女性の就農環境改善対策事業を活用した取組の計画内容

(1) 働きやすい環境整備への支援

【計画内容】

時期	内容 (対象者・方法等)	備考

(注) 「内容」欄には支援内容、対象者、実施方法等を具体的に記載し、第4の(1)の事業の応募者は、確保する施設等について5名以上の女性の利用者がいることがわかるよう記載し、必要に応じ、計画の詳細等を記載した資料を添付してください。

(2) 地域の女性グループの活動支援

【課題】 ※簡潔にご記入ください。※課題番号は必要に応じて追加・削除ください。

①	農業における、労働力不足
②	農業女性に対する、パワハラ、セクハラ、モラハラなどの働きにくさ

【課題解決のための補助事業（概要）】※課題番号に対応するように記入ください。

①	女性の労働力確保のためのコミュニティ作り、効果的な雇用促進のための知識の獲得と、実際の募集
②	女性の働きやすい環境を作るための講座

【事業成果と今後のプラン】

※課題番号に対応するように記入ください。

※どのようにグループ活動の活性化及び今後の活動に繋がるか分かりやすく記入ください。

※できる限り、数値目標を入れてください。

※商品計画については、翌年度以降の販売事業計画をご記入ください。

①	雇用募集のための、グループとしてのHPとパンフレット作成（600部）。雇用のための勉強会によるブラッシュアップ、クレーム減の対策実施。新規雇用確保。農業女性のコミュニティの確保。農作業体験会、説明会を実施（年2回）
②	講座にできるだけたくさんの方々に来てもらい、問題共有と、今後の方針についてディスカッションする。（上富良野、富良野、中富良野の議員さん、役場関係者、農協関係者など）

【事業内容（詳細）】

課題番号	時期	グループ活動内容（対象者・方法等）	事業実施経費（費目、金額）	備考
①	2022/5	マイナビ講習①	10万円	
	2022/6	マイナビ講習②	10万円	
	2022/6~7	HP作成	17,345円	
		パンフレット作成	22,345円	
		農業体験会	2,901円	
2022/12	雇用募集開始 マイナビ講習③	10万円		
②	2023/1	マイナビ講習④	15万円	

(注) 「内容」欄には支援内容、対象者、実施方法等を具体的に記載し、必要に応じ、計画の詳細等を記載した資料を添付してください。

5 女性農業者確保の目標

事業実施年度翌年度までの 女性農業者の新規確保人数	15 人
(新規確保女性農業者の内訳) 自営農業就業者 3 人、雇用就農者 人、アルバイト・ボランティア等 12 人	

(注) 必要に応じ、計画の詳細等を記載した資料を添付してください。

女性農業者は、新規参入者、自営農業就農者(結婚を機に就農された方含む)、雇用就農者、アルバイト、ボランティア等を含む農業関連事業従事年間30日以上の方とします。農業関連事業とは、農産物製造・加工、農畜産物の貯蔵、運搬、販売、農業生産資材の製造、農作業の受託、都市住民等の農作業体験施設の設置・運営や民宿業を含みます。